

● 自治会新役員の皆様を迎えて

地域の皆様の参加協力のもと、第5・第6ブロック各自治会の新役員方を迎えて、6月14日(土)に朝日町住宅自治会館で懇親会を開催しました。第1部としては、この機会を利用して、昭島市総務部地域防災担当 主幹の菅野さんより、「昭島市地域防災計画 概要版」の配付資料をもとに説明をいただきました。

つづいて、市民会議防犯防災部 西野部長から、6月7日(土)に予定していた玉川小学校での防災訓練について、当日の大雨警報のため中止(消防署が待機状態となり玉川小学校に来られなくなった)としたが、この防災訓練再開について検討していくとの話がありました。第2部として、懇親会に入り、話や余興に自治会間の垣根も取り外され、今後の自治会活動にはずみがついたようです。来賓として、中神小学校校長・昭島市市民部部長・議員(国会・都議会・市議会)の方々の参加をいただき、出席者は42名になりました。



地域活動部会 / 鈴木正俊

● ホタルの観賞会(元西川伊左エ門別荘の庭園で)

富岡製糸が世界遺産に登録されましたが、かつて中神にも大正十五年、フィラデルフィア万博でグランプリ(金賞)を受賞した西川製糸がありました。その創業者の西川伊左エ門別荘跡地には、曾孫の西川知恵子さんがお住まいです。(別荘の母屋は東京都に寄贈、小金井の江戸東京たてももの園に移築復元)さて、お蔵が残っている元別荘前を宮沢湧水から流れる川に、数年前ゲンジ蛍が乱舞、窓から蛍がリビングに入ってくる程でした。

しかし、翌年はわずかなホタルしか見られませんでした。知恵子さんは思いました。「あのホタルの乱舞を、毎年蛍の好きな人にお見せしたい。」と。そして、ホタルに詳しい人を探し、出会ったのが、東京ホタル会議 副議長の井上務氏でした。井上さんは西川さんの熱意が本物だと強く感じましたので「枯山水の立派なお庭に水を入れることになりましたが宜しいですか?」と相談。西川さんは「ホタルのためなら!」と迷いなく快諾されました。そして、改修工事が始まり、昭島の水道水が池に導入され、その水道水でのホタル飼育がスタートしました。まずはヘイケボタルの飼育から始めました。「水道水でホタルが飼育できるのかしら?」との西川さんの心配をよそに見事にホタルが飛翔してくれました。昭島の水道水で蛍が飼育できることを知った西川さんは池の拡張を考え、2つの池を追加、合わせて3つの蛍池が完成しました。6月13日 午後5時30分、(天候:晴れ、気温:22度)井上さんの講演とホタル鑑賞会が開催されました。それは多くの研究観察を続けたことを物語る内容であることは当然のこと、一番大事なことは「ホタルが生息できる環境は、他の生物植物の環境にも全て適したもので、ホタルは自然環境を代表するシンボルのような存在なのだ。」ということでした。さて午後8時20分、あたりが暗闇に包まれた西川庭園に数多くのホタルの光が輝いた。参加者30人全員がご満悦で帰宅された。



レクチャーする井上務さん

< ホタルの勉強会 > 講師 井上 務

西川庭園の蛍はなぜヘイケボタル?。

流水好きのゲンジに比し、ヘイケは止水がお好み。西川庭園には止水である「池」があるのでヘイケなのです。

ところで、昼間の蛍はどこに?。葉っぱの裏などで静かに夜を待っています。さて、幼虫は水中生活者。やがて上陸し土藪の中でサナギに。羽化した成虫は明滅しながら空を舞います。でも、明る過ぎたら雄と雌はすれ違い。西川庭園で今年もホタルが飛びました。ということは葉っぱ、もぐる土、暗闇、そしてよい水。全てが揃っていたのです。成虫は水しか飲みません。だから蛍は良い水の所にしか生息しないのです。

♪昭島の水はあ~まいぞ~♪

取材編集 / 幡垣 誠



午後6時の庭園



午後8時20分闇夜の庭園